

CASBEE[®]さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■ 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)さいたま市浦和区針ヶ谷プロジェクト	階数	地上6F
建設地	さいたま市浦和区針ヶ谷1丁目123番・124番	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	111人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年12月6日
敷地面積	1,177 m ²	作成者	三上 隆久
建築面積	630 m ²	確認日	2022年12月16日
延床面積	2,685 m ²	確認者	三上 隆久



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ (60%)

標準計算

① 参照値	138
② 建築物の取組み	92
③ 上記+②以外のオンサイト手法	46
④ 上記+	0

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

音環境	3.0
温熱環境	1.9
光・視環境	2.8
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

機能性	2.5
耐用性	2.9
対応性	3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 1.7

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性	2.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

建物外皮の熱負荷	3.0
自然エネルギー	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

水資源	2.2
非再生材料の使用削減	3.1
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

地球温暖化への配慮	3.1
地域環境への配慮	2.3
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
0	0	
Q1 室内環境 空気環境について配慮した。	Q2 サービス性能 対応性・更新性について配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 0
LR1 エネルギー 0	LR2 資源・マテリアル 部材の再生利用について配慮した。	LR3 敷地外環境 0

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)さいたま市浦和区針ヶ谷プロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		基本設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.4
Q1 室内環境			0.40		-	2.7
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		-	0.35	1.9	1.00	1.9
2.1 室温制御		-	-	1.7	0.50	
1 室温		-	-	1.0	0.63	
2 外皮性能		-	-	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	1.0	0.20	
2.3 空調方式		-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.0	0.25	2.8	1.00	2.8
3.1 昼光利用		-	-	2.5	0.30	
1 昼光率		-	-	2.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		-	-	3.0	0.30	
1 昼光制御		-	-	3.0	1.00	
3.3 照度		-	-	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	1.00	3.0	0.25	
4 空気質環境		-	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策		-	-	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	JIS規格F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用している	-	-	4.0	1.00	
4.2 換気		-	-	3.0	0.38	
1 換気量		-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.8
1 機能性		2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	3.6	0.50	
1	階高のゆとり	階高=2915	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.94	3.6	0.50	-	-	3.6
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	フローリング	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率97%	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-	
1	風害の抑制		-	-	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	